

● はじめに

昨今の撮影機材の進化により、RAWファイル、HDを超える画像サイズ（4Kなど）、ハイスピード撮影、マルチカメラなどの大容量データを扱う撮影が急激に増加してきました。これに伴い、収録メディアから保存するメディアへのクローン作成時間が、制作スケジュール全体に与える影響が見逃せえないものになりつつあります。これらデータマネージメントに関する業務をしっかりと定義づけ共有することで、時として過重労働になりがちな労働環境問題を解決するとともに、何よりも大切な撮影済のオリジナルデータを、安全で確実に保存するためのシステムを構築することが急務であると考えます。

● 撮影素材の定義

○ 収録メディア

撮影時に、カメラから直接書き込まれた撮影データ(=収録データ)が保存されたメディアのことです。
メディア自体が高価でレンタル機材であることも多いために、セカンドクローン迄のエラーチェックが終了した後にデータを消去して再利用するのが一般的です。

○ オリジナルメディア / バックアップメディア

収録メディアから、同一性を保持する方法で撮影データを複製したメディア（クローン）のことです。
収録メディアの撮影データが消去された後には、これらクローンメディアに保存された撮影データが唯一無二の物となります。
現在、主に使用されているHDD等の信頼性の問題から、2つ以上のクローンメディアを作成する必要があります。
クローン作成にあたっては目視による品質確認に加え、適切なチェックサムによる同一性の確認が欠かせません。
これら2つのクローンメディアの一方はその後のポスプロ作業用、他方は取り決めた期間内の保管用とします。

名称	定義	チェック方法	メディア種別	保管
オリジナルメディア	ファーストクローン 収録メディアから最初に複製された撮影データ(=オリジナルデータ)を保管したメディア	※ 目視確認と ※ チェックサムを併用	HDD SSD 他	広告主との取り決めにより初号納品日から1年又は2年間保管する。 広告主からの追加要請により期間を延長し恒久的な保管をする可能性がある。
バックアップメディア	セカンドクローン 収録メディアから2番目に複製された撮影データ(=バックアップデータ)を保管したメディア	チェックサムのみ	HDD SSD LTO 他	オリジナルメディアと同様の保管が望ましい。

※ 目視確認：RAWファイルの場合、正確な目視確認のためには現像が必須になる場合があります。このための機材の準備が困難であるなど、現場でのクローン作成時のチェックのレベルを限定しなければならない場合は、事前の打合せでチェック方法についてスタッフ間で情報共有が必要となります。

※ チェックサム：ファイルのハッシュ値による同一性の確認のことです。

※ オリジナルメディア/バックアップメディアは、保管方針により初号プリント納品日以降に初期化され再利用される場合もあります。
再利用する場合、メディアは完全消去されたものである必要があります。

【JAC データマネージメント構築プロジェクト】

● データマネージメントに携わる職種

収録メディアに書き込まれた撮影データから、オリジナルメディアやバックアップメディアを作成する作業に携わる職種には、データ・マネージャー/データ・ローダーなどがあります。スタッフ構成によっては、DITやVEがクローンメディア作成を行う場合もあります。オリジナルメディアの作成という撮影業務を完了させる作業を担う事から、クローンメディア作成は撮影領域の作業と定義します。（職域チャート参照）
よって、これら職種の任命は、基本的に撮影技師によるものとします。
収録メディアの撮影データを消去する作業は、これらデータマネージメント職種の方が行います。

○ データ・マネージャー

撮影データの書き込まれた収録メディアから、オリジナルメディアやバックアップメディアなどのクローンメディアを作成する作業を受け持ちます。
撮影部と連携し、撮影データ管理の方法を選択し実行します。
必要に応じて撮影事前打合せから参加したり、オンセットグレーディングやデータ変換などのポストプロ領域の作業やデータ管理を行う場合もあります。

○ データ・ローダー（アシスタント・データマネージャー）

撮影データの書き込まれた収録メディアから、オリジナルメディアやバックアップメディアなどのクローンメディアを作成する作業を受け持ちます。
撮影部の指導のもと、撮影データ管理の方法を選択し実行します。
オンセットグレーディングやデータ変換等のポストプロ領域の作業は請け負わない、クローンメディア作成に特化した職種です。

○ DIT（デジタル・イメージング・テクニシャン）

撮影事前打合せから参加をして、最適なワークフローの提案・実行を監修します。
機材選定などの撮影領域から、オンセットグレーディングやデータ変換、データ管理などのポストプロ領域の作業をシームレスに行います。
グレーディングなどにおいては、クリエイティブな領域に対する責任の一翼も担います。
スタッフ構成によっては、撮影データの書き込まれた収録メディアから、オリジナルメディアやバックアップメディアなどのクローンメディアを作成する作業も受け持ちます。

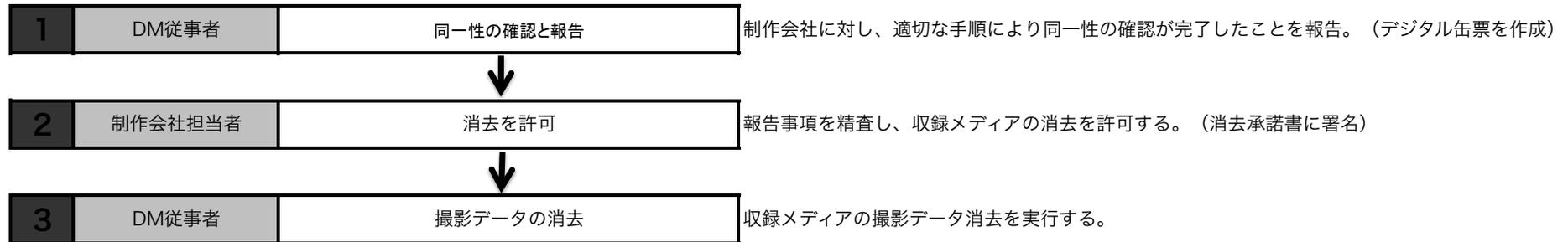
○ VE（ビデオ・エンジニア）

撮影現場におけるビデオ機材の管理・運用の責任者です。
撮影部・照明部と連携しながらビデオカメラの調整を行い、色調・ルックを管理します。
ファイル収録カメラの場合は、撮影データの書き込まれた収録メディアから、オリジナルメディアやバックアップメディアなどのクローンメディアを作成する作業を受け持ちます。（機材のファイルベース化に伴い、他の職種へ統合されつつあります。）

【JAC データマネージメント構築プロジェクト】

● 収録メディアの消去手順

収録メディアの撮影データを消去する場合は、以下の手順が必要となります。



■ デジタル缶票（別紙添付）

デジタル缶票に記入し、オリジナル（バックアップ）メディアに貼付する事により、DM従事者がデータの同一性を確認したことを証明する事とする。

■ 消去承諾書（別紙添付）

収録メディアの撮影データ消去の指示を口頭で行う場合もあるが、出来る限り消去承諾書の活用が望ましい。

※ DM従事者：(DIT、VE、DM、DLなど)

※ 制作会社担当者：(P、PM)

● データマネージメントの責任と義務

プロダクションワークの視点から、最大の責任者はプロデューサーとなりますが、責任上の上位者（職域チャートの上段、あるいは撮影部/PM）にも、任命責任や指導/指示の責任が生じます。

クローンメディア作成に従事する者には、上記のように適切な方法と手順により、クローンメディア作成から収録メディアの消去までの作業を行う義務があります。

万一、適切な手順を怠った事が原因で事故が生じた場合は、その個人が責任を問われる可能性があります。

【JAC データマネージメント構築プロジェクト】

● データマネージメント関連費用

データマネージメントに関わる費用は次の通りです。

クローンメディア作成費 + 人件費 + 使用機材費 = 総費用
(データ変換やグレーディングなどを行った場合は別途計上される場合があります)

○ クローンメディア作成費

収録メディアからオリジナルメディア/バックアップメディアを作成するデータ量に関わる費用です。
データコピーを行う場合は、目視確認だけに留まらず適切なチェックサムによる同一性の確認を行います。
全てのコピーデータに関するスクリプトを作成し添付します。

オリジナルメディア (ファーストクローン)	10GBにつき	円
バックアップメディア (セカンドクローン)	10GBにつき	円

○ 人件費

・基本単価

DIT (デジタル・イメージング・テクニシャン)	円/1日
VE (ビデオ・エンジニア)	円/1日
DM (データ・マネージャー)	円/1日
DL (データ・ローダー)	円/1日

※ 1日単価でなく、1作品あたりの担当費で計上される場合もあります。

・カウント方法

8時～18時	×1
8時～22時	×1.5
8時～翌日2時	×2
8時～翌日5時	×2.5
8時～翌日8時	×3

※ クローンメディア作成の実作業時間は人件費にカウントしません。

○ 使用機材費

撮影機材とは別に、データコピーに関わる機材・メディアなどの費用です。
撮影機材とは拘束期間が異なる場合が多いので、注意が必要です。